

芦企第678号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

芦北町長 竹 崎 一 成



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付け、国道企整第37号で依頼のありましたこのことについて、
別紙のとおり回答します。

道路特定財源等について、「道路特定財源等に関する基本方針」をうちだされたが、もし、道路整備を行うのに、単に道路の実現稼働率による経済性の評価を主たる整備基準とするならば、走行量の少ない地方での整備は遅れる一方であり、地方道路の切り離しに繋がるのではないかと懸念を覚える。

そのような中、優先度の高い政策として、高速ネットワークの効率的活用及び機能強化を核とする幹線道路の整備強化である。生活道路を含む幹線道路整備の遅れにより、緊急車輛の到着時間にも影響を与えており、助かる命も助からず、食い止められる災害等も止められない状況であり、住民の生命・財産を守る上で、道路整備の促進を図るべきである。

また、一世帯当たりの自動車保有率は都市部に比べて非常に高く、本町は、中山間部が多く、自動車が主な移動手段となっているため、今後も日常生活に必要な道路の整備を進めていく必要があると考える。

よって、徹底的な効率化を図るためには、事業実施のうえで、地元自治体及び地域住民の考えや意見が十分に反映されるよう、早い段階で現地調査や評価を行い地域の実情を把握することが重視される。

なお、道路の整備・管理全般については、高速道路と幹線道路を結ぶアクセス整備、豪雨災害等に強い道路整備並びに交通弱者(子供・高齢者)のための安全・安心な歩行空間の整備、観光標識の充実などの道路環境を望む。

②-1 地域の現状と抱える課題

熊本県 芦北町

○現状

本町の幹線道路は、南北を縦貫する国道3号線と人吉・球磨方面へつながる主要地方道芦北球磨線がある。国道3号線は、本町における最大の幹線道路として整備されており、住民の生活や地域経済に大きく寄与している。

主要地方道県道芦北球磨線については、全線改良に向け整備を進めている。一般県道や町道は、計画的な整備が行われ、一定の成果を収めているものの、モータリゼーションの進展による交通量の増加に伴い、より一層の整備が必要である。道路整備は住民生活に直接結びつくものであり、地域住民の利便性向上と地域の振興、広域的なネットワークの構築を図るため、県道芦北坂本線の早期全面改良、シーサイドロードの整備など、積極的に進めている。

さらに、今年度末に南九州西回り自動車道芦北ICが供用開始予定であるため、開通後のまちづくりを効率的に進めるにはアクセス道路の整備が必要であり、計画的に整備を行っている。

また、生活様式の多様化により、住民生活・活動範囲も拡大の傾向にあり、そのことに対応するためにも、これら道路網の改良が必要である。

○課題

・主要地方道芦北坂本線の道路改良について

本路線は、芦北町中心部と町北部の地域を結ぶ唯一の道路であり、通勤通学をはじめ、生活道路としてその役割は非常に大きい。また、南九州西回り自動車道芦北ICが今年度末には開通予定であり、そのアクセス道として交通量の増加が見込まれている。

しかし、本路線の宮浦～松生区間は、一部改良が行われているものの、未だ見通しの悪い区間が多く、幅員も狭く未整備箇所が多く存在し、非常に危険であることから、安全性の確立と円滑な交通が喫緊の課題である。

・県道二見田浦線の改良について

本路線は、肥薩おれんじ鉄道と並行して海岸を走り、近隣の八代市二見と芦北町田浦とを結ぶ道路であるが、台風による高潮、越波等を受けやすく、また、幅員が狭く、普通自動車以上の車輛や緊急車輛が通行できないなど、極めて改良が遅れている路線である。

さらに、台風、地震などの災害時には沿線集落の孤立が懸念されている。住民が安全で安心な生活を支える道路交通を確保するためにも、早期に道路整備を行う必要があるが、本路線の管理管轄が複数に分かれるため、整備の遅れを懸念する。

・南九州西回り自動車道の整備について

地域内外の人の交流や物流を促進し、住民生活の利便性の向上や

産業・経済活動の活性化を図るため、広域高速交通体系の核として、南九州西回り自動車道の整備促進が必要である。この高速整備の効果を地域内に波及させるためには、その整備に併せたアクセス道路網や、高速の開通に伴う渋滞など、インターチェンジ周辺の整備を行う必要がある。

・国道3号線冠水対策について

国道3号線は九州における交通の動脈として大変重要な機能を果たしている。しかし、本町の中心部に位置する芦北、湯北、小田浦地区においては、台風や集中豪雨で周辺河川の増水等により、国道3号線が冠水し、車輛や歩行者の通行が完全に不可能になるとともに、周辺の商店や個人住宅等への浸水被害が発生している。

このことは、交通事故発生の恐れや、交通が遮断されることによる地域経済活動へ大きな阻害要因となっている。よって、地域住民の生命財産を守り、地域経済の振興のためにも冠水対策の整備が急務な課題である。

②-2 地域の目指すべき将来像

熊本県 芦北町

以下、3つの目指すべき「将来像」を掲げ、道路行政施策を展開する。

将来像1：「豊かな住みよい社会基盤づくり」

交通ネットワークの整備

本町の幹線道路は、町南北を縦断している国道3号と町中央を人吉・球磨方面に横断する主要地方道芦北球磨線があり、これらの幹線道路を軸として計画的な道路整備が行われてきた。

なお、本町は、中山間部が多く、山に挟まれた地形が多いため、地域住民の利便性を向上し、活性化を図るためには、町中心部からの時間的距離を短縮する道路網の整備が不可欠である。そのため、今後も、計画的な道路網の整備を推進する。

また、高齢者等交通弱者の日常生活の交通手段を確保するための施策を検討する。

将来像2：「交流を支える基盤整備」

吉尾大橋の建設促進

現在、吉尾地区から国道219号へのアクセスは、上流の神瀬橋又は下流の瀬戸石ダムへ迂回しなければならないため、地域に直結する橋の建設が必要である。

このため、今後も引き続き吉尾大橋の建設促進を図る。

将来像3：「高速交通体系等の整備」

インターチェンジ周辺の整備と道路網の整備

芦北ICの開通を今年度末に控え、インターチェンジから国道3号へのアクセスなど円滑な交通の確保を図るため、その周辺の整備及び高速交通体系を軸とした道路網の整備を行う。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

熊本県 芦北町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他
・地域活力の向上	・南九州西回り自動車道の整備	・南九州西回り自動車道の整備は、「人」や「物」の流れを変化させ、都市との交流・連携を強化し、経済活動の基盤を支えるのみならず、文化、観光振興、過疎対策にも大きな影響を与え、町全体の活性化に繋がることを期待する。さらに、幹線道路が国道3号線のみ状況であるため、事故や豪雨、地震などの災害で国道3号線が通行できない場合、大きく迂回する必要があるが、代替道路としても活用できることにより、迂回にかかる時間や経済的損失を大きく削減できることを期待する。 ・全国的に進められている高速交通網の整備によって、観光地へのアクセスの向上と、より遠くの都市からの集客が可能になるという点で、有利な条件であるが、その反面近年、価値観の多様化やライフスタイルの変化に伴い、観光地に対するニーズが大きく変わり「見る」から「参加・体験・交流」などの主体的な観光を求める傾向が強まってきている。本町ではそんなニーズに応えられるような農村、観光うたせ船など多くの交流・体験資源に恵まれているが、さらに、これらの資源を有効に活用した観光基盤整備や交流組織の育成を一体的に進め、観光産業の活性化を図っていく。観光振興への波及効果は、雇用や地域経済、農業の担い手など、幅広い局面に及ぶことを期待する。	